

# 令和4年度 飯豊町立手ノ子小学校 重点目標具現化の「学校経営グランドデザイン」

## 飯豊町教育大綱

～高い志と誇りを持ち、飯豊の明日を拓く人づくり～  
**飯豊町教育大綱を踏まえた学校教育指針**  
 自信あふれるいいでの子ども 安心・元氣な信頼される学校

## 学校教育目標

**進んで学び 心優しく たくましい 手ノ子小の子**

## 学校の合言葉（子どもと教師が共に取り組む）

- 【あ】 あきらめない《進んで学び》《たくましい》
- 【い】 いのちを大切に《たくましい》
- 【う】 美しい心《心優しく》
- 【え】 笑顔であいさつ《心優しく》
- 【お】 思いやり《心優しく》

## ◇働き方改革

- ◇ 組織運営体制の在り方改革
  - ・ 教員相互の協力による業務の平準化、効率化、組織的対応による負担軽減。
- ◇ 校長の学校マネジメントによる業務の負担軽減
  - ・ 勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方の声かけ。
- ◇ 学校運営協議会委員等外部の協力を得て、教員の働き方を改善
  - ・ 校内外清掃等学校の業務だが、教師が担う必要のない業務への協力を依頼。
- ◇ 町の予算措置による業務改善
  - ・ 地域学校協働活動推進員、スクールサポーター

## 重点目標の設定理由

- 「SDGs 未来都市」である飯豊町で、「SDGs」の理念である誰一人として取り残さない社会の実現を目指し、「質の高い教育」を追求することが学校の使命であるため。
- 人口減少、少子高齢化等の社会の変化に対応し、主体的に生きる力を育むとともに、社会に開かれた教育課程の実現に向けコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取り組みを進め、活力ある地域の学校づくりを進めるため。

## 今年度の重点目標

- (1) 「自己管理能力」を育むことに努める
- (2) 「考える力」（思考力・判断力・表現力、学習意欲）を育むことに努める
- (3) 「社会力」を育むことに努める

## 重点目標の評価項目と検証方法

- 客観的データ（全国学力・学習状況調査、県学力調査、NRT、全国体力運動能力・運動習慣等調査、県体力・運動能力調査、Q-Uアンケート、いじめアンケート等）
- 教職員の自己評価（教職員評価を兼ねる）
- 教職員、児童、保護者、学校関係者による学校評価
- 担任による学年・学級カリキュラムの評価（各学期1回）

## ◇危機管理体制

### の充実

～学校事故・不祥事の撲滅～

- ◇ 危機管理マニュアルの活用と改善
  - ・ 自然災害・火災対応避難訓練・不審者対応教室の実施
- ◇ 安全指導と安全管理の徹底
  - ・ 安全に対する意識の高揚
  - ・ 交通安全指導の徹底
- ◇ 複数での確認徹底
- ◇ いじめ・不登校対策の実施
  - ・ いじめアンケートの確実な実施と活用
- ◇ 不祥事防止の取り組み徹底
  - ・ 不祥事防止に向けての日常的な情報提供

## 具体的な取り組みを推進する各部の活動

### <教務部（今）>

- ・ 教育課程
- ・ 組織・編成
- ・ 「いのちの日の推進」等

### <指導部（今、蒲生、菅間）>

- ・ 教科等経営と評価
- ・ 道徳教育
- ・ 特別支援教育・教育相談

- ・ 環境教育
- ・ 図書館教育

- ・ メディア・情報教育

- ・ 全校音楽指導

- ・ 総合的な学習の時間

- ・ 校内外生活指導

- ・ 特別活動全体計画

- ・ 学校行事

- 等

### <事務部・渉外（鈴木・教頭）>

- ・ 校務運営

- ・ 学校運営協議会

- ・ 学校後援会（創立150周年事業実行委）

- ・ PTA・祖父母学級 等

## 重点目標達成の具体的な取り組み

重点目標1	重点目標2	重点目標3
①生活リズムの確立 ②体力・運動能力の向上 ③基本的行動様式の定着	①探究的な学びの推進 ②教科・単元における資質・能力の明確化 ③読書活動の充実とICTの活用による日常と繋がりのある家庭学習の充実	①生徒指導の3機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かした居場所づくりと絆づくりに繋がる集団活動の充実地域の教育資源を生かした活動の充実 ②地域の教育資源を生かした活動の充実 ③地域のよさや課題に触れ、思考・判断・表現する活動の実施

## 重点目標達成に向けた取り組みを教員一人一人が具現化する方法

教職員評価（業績評価）に基づくPDCA	学年・学級力・マネ表に基づくPDCA
① 学習指導、生徒指導、学校運営、特別活動・その他等について、重点目標達成に向けての具体的な取り組みの記入と、校長・教頭との面談を受けての自己目標確定（5月）。 ② 実施内容の自己評価による成果と課題の明確化（上期9月・下期2月）と次期に向けた取り組みの計画（上期9月）。	① 学校教育目標と発達段階を踏まえた学年・学級カリキュラムの作成 ② 学年・学級カリキュラムに即した教育活動の展開と子どもの育ちの把握（前・後期の通知表配付） ③ カリキュラムへの成果と課題の記録及び改善の視点の明確化（各学期1回）
教員評価の進め方	学校評価の進め方
○目標管理型の教員評価の実施 「指標」及び学年・学級カリキュラムに基づく各教員の自己目標の設定・実施及び管理職による指導助言・評価	○学校経営グランドデザインに基づく教育活動の自己評価に対する学校評価の実施及び公表・改善 ・保護者、学校運営協議会による学校評価の実施・公表

## 重点目標を具現化する研究活動

### 研究主題

「自律的・主体的に考え、共に学び合う子どもの育成」～算数科における複式学級での授業づくりを通して～

### 取り組みの視点と手立て

**視点1** 自分の考えをもち、気付きや考えを表現するための手立てと工夫

- ・ 導入や課題設定、一人学びの場の工夫
- ・ 実態に合わせた交流のさせ方と発表方法

**視点2** 児童の主体性を大切に複式授業スタイルの確立

- ・ 身に付けたい資質・能力の明確化と児童との共有化（めざす姿とめあて）
- ・ 授業展開の工夫（直接・間接の軽重、ざらしやわたり、同時間接等）
- ・ 授業パターンの定着と学習リーダー育成・活用の仕方
- ・ ICTの効果的な活用による交流の質の向上

### 研究の方法

- ・ 授業研究を中核に、事前事後の研究会和追試研究で研究を深める。
- ・ 研究の積み上げと日常化（授業パターンの定着と学習リーダーの育成）を図る。
- ・ 校内研究を踏まえたアクションプラン。

## 教員一人一人が授業準備や教材づくり、児童生徒の諸活動・相談等に専念できるなどの教員の教育活動を支援する学校経営活動

組織・運営の改善等	教育課程（含む行事や週時程）の改善等	家庭・地域との連携、内外教育資源の活用等
○原則、一人一指導部体制とするが、業務の平準化を図るため、また、教員の専門性を活かすため、一部指導部間の乗り入れを行う。 ・ 教員減に伴い、学び部といのち・かかわり部を統合。 ・ 指導部会は開催せず、適宜他の職員と相談しながら企画し、提案文書等は担当→教頭→校長の流れで決裁。 ○学校研究推進委員会、教育課程検討委員会は開催せず、担当案を即全体会で検討。	○日課表を工夫し、下校時刻を早めることで、放課後の教材研究や校務分掌の時間を確保する。 ・ 授業は概ね5時間まで、週1時間程度の6校時の日（委員会活動を含む）。他、週1回のクラブ活動/放課後活動の日（教頭・地域学校協働活動推進員が担当）。 ・ 朝活動を8:20～8:40とし、8:40から1校時を開始。 ・ 体力づくりの時間をチャレンジタイムとして定例化。その他、手ノ子小会議・集会・委員会の時間（12:55～13:35）を火曜日に設定する他、ロング共遊の時間（12:55～13:35）を木曜日に設定。 ○可能な限り合同授業を設定することで、空き時間を確保していく。 ・ 図工と体育は2～6年の合同とし、1名+担外で指導。	○学校運営協議会制度（CS:コミュニティスクール）への移行により、全校遠足（誘導、案内、安全確保等）やプール関係（清掃等の管理面）、西部地区・中津川地区公民館文化祭での学習発表等、地域との合同事業化を検討することで、活動の質の向上及び学校の負担軽減につなげていく。 ○小規模校のデメリットを補う一つの方策として、3年以上の総合的な学習の時間においては、他との交流を通して、より多くの人と意見交換を行うことで、考えを広げる、深める経験の場を意図的に設ける。そのために、地域学校連携推進委員がT・Tで入る。 ・ 小規模校のメリットである機動性を生かした見学的・体験的な学習の積極的な導入とともに、ICTを活用したオンラインでの活動等の実施も模索する。

